

日本語教授法Ⅱ

日本語教授法Ⅱ

2単位 2年(後期)

橋本 智・准教授/国際センター

【授業目的】 留学生をはじめ外国人と接する時、日本語はコミュニケーション手段の基本となり、その日本語を支えているものは文法である。この文法は国文法とは異なる視点で形成された外国人のための日本語教育の文法である。テキストだけにとどまらず時には留学生もまじえ生きた日本語の仕組みを体感する。

【授業概要】 「外国人のための日本語」について文法を軸に仕組みを学ぶ。

【キーワード】 外国人のための日本語、コミュニケーションの道具、運用

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 [関連科目]

【履修上の注意】 隔年開講のため、2010年度は開講しない予定なので、注意すること。

【到達目標】 外国人のための日本語の仕組みを学び、日本語指導やコミュニケーション時の基本とする。

【授業計画】

1. ①本授業の進め方②各自の外国語習得について③日本語教育とは
2. ①日本語教育のこれまで②外国人のための日本語(以下「日本語」とする)の特徴(1)SOV型・主語の省略・従属節
3. 「日本語」の特徴(2)複数・助数詞など
4. 音声・リズム
5. 文法①国文法との違い②品詞③名詞文「～は～です」
6. ①動詞とは②その活用③文型とは
7. その文型の機能とそれ支える各フォーム(1)て形、ない形、た形
8. その文型の機能とそれ支える各フォーム(2)辞書形、可能形、意向形、命令・禁止形
9. その文型の機能とそれ支える各フォーム(3)受身形、使役形、敬語
10. ①アスペクト②まとめ-留学生と共に
11. ①形容詞とは②その活用③形容詞の機能(1)印象・感想、描写
12. ①形容詞の機能(2)②～たい・～ほしい
13. ①助詞②接続詞③副詞の役割と機能
14. 表記①ひらがな・かたかな・漢字について②その導入-留学生と共に
15. 総括授業

【成績評価】 課題への取り組み方、クラスでの姿勢、レポートなどによって評価する。

【再試験】 無

【教科書】 授業初日に伝える

【参考書】 [参考資料]

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219297>

【連絡先】

⇒ 橋本 (088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】

- ◇・将来「日本語」の指導に関わりたいと考えている人だけでなく、国際人の教養と捕らえ、難しく考えないで、楽しい授業にみんなでしていきましょう。
- ◇・隔年開講のため2010(平成22)年度は開講しないので、履修プランをたててください。わからないときは、相談に来てください。

Target) 留学生をはじめ外国人と接する時、日本語はコミュニケーション手段の基本となり、その日本語を支えているものは文法である。この文法は国文法とは異なる視点で形成された外国人のための日本語教育の文法である。テキストだけにとどまらず時には留学生もまじえ生きた日本語の仕組みを体感する。

Outline) 「外国人のための日本語」について文法を軸に仕組みを学ぶ。

Keyword) 外国人のための日本語, コミュニケーションの道具, 運用

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) [関連科目]

Notice) 隔年開講のため、2010年度は開講しない予定なので、注意すること。

Goal) 外国人のための日本語の仕組みを学び、日本語指導やコミュニケーション時の基本とする。

Schedule)

1. ①本授業の進め方②各自の外国語習得について③日本語教育とは
2. ①日本語教育のこれまで②外国人のための日本語(以下「日本語」とする)の特徴(1)SOV型・主語の省略・従属節
3. 「日本語」の特徴(2)複数・助数詞など
4. 音声・リズム
5. 文法①国文法との違い②品詞③名詞文「～は～です」
6. ①動詞とは②その活用③文型とは
7. その文型の機能とそれ支える各フォーム(1)て形, ない形, た形
8. その文型の機能とそれ支える各フォーム(2)辞書形, 可能形, 意向形, 命令・禁止形
9. その文型の機能とそれ支える各フォーム(3)受身形, 使役形, 敬語
10. ①アスペクト②まとめ-留学生と共に
11. ①形容詞とは②その活用③形容詞の機能(1)印象・感想, 描写
12. ①形容詞の機能(2)②～たい・～ほしい
13. ①助詞②接続詞③副詞の役割と機能
14. 表記①ひらがな・かたかな・漢字について②その導入-留学生と共に
15. 総括授業

Evaluation Criteria) 課題への取り組み方, クラスでの姿勢, レポートなどによって評価する。

Re-evaluation) 無

Textbook) 授業初日に伝える

Reference) [参考資料]

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219297>

Contact)

⇒ Hashimoto (+81-88-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp) MAIL

Note)

- ◇ ・将来「日本語」の指導に関わりたいと考えている人だけでなく、国際人の教養と捕らえ、難しく考えないで、楽しい授業にみんなでしていきましょう。
- ◇ ・隔年開講のため2010(平成22)年度は開講しないので、履修プランをたててください。わからないときは、相談に来てください。